

令和6年能登半島 地震災害支援 報告書

支援概要

令和6年能登半島地震被災地へのキャンピングカー派遣の概要

目的	被災地へ各地方から来た <u>応援職員の宿泊場所</u> として利用
派遣前の状況	<u>現地に宿泊場所がなく</u> 応援職員は市役所等の建物の廊下で寝袋での就寝となっていた。
派遣前の課題	宿泊先のある金沢から通うことは <u>移動時間がかかる</u> ため難しい。 能登半島内には宿泊先がなく、廊下等での睡眠になるため、寒さや環境のため熟睡ができず、 <u>作業効率の低下の原因</u> となっていた。
派遣後の変化 (現地の声)	<u>暖をとってベッドでの睡眠</u> が叶うため、身体を休めることができた。 車内で食事をとったり、テレビを見たり、 <u>プライベートな空間を確保</u> できた。
キャンピング カーの強み	自走できるので設置までのスピードが速い。自家発電可能。電気を使用せずに暖が取れる。 環境が整うまでの短期利用として、必要最低限の宿泊機能を安価に提供できる。

派遣の報告

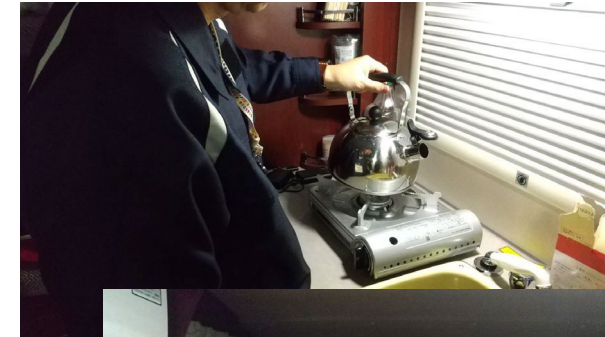
キャンピングカー派遣の流れ

日時	対応内容
1月1日	地震発生
1月2日	一級危機管理士の当時熊本市職員であった大塚氏が珠洲市入り 熊本地震でキャンピングカーが役立った経験を元にキャンピングカーを自治体職員として利用することを提案
1月3日	大塚氏の助言を受け、 珠洲市より自治体職員の宿泊施設としてのキャンピングカー利用を検討開始
1月5日	珠洲市へキャンピングカーを1台派遣、現地での活用方法を確認後、正式要請
1月11日	珠洲市へ19台のキャンピングカーを派遣
1月12日	輪島市より自治体職員の宿泊施設としてのキャンピングカー派遣要請
1月18日	輪島市へ20台のキャンピングカーを派遣珠洲市より11台追加要請
1月19日	輪島市より10台追加要請
1月22日	能登町、輪島市へランドリー企業の宿泊場所としてキャンピングカーの派遣要請
1月27日	輪島市へランドリーカー派遣企業の宿泊場所として1台車両派遣
1月30日	石川県珠洲市へ11台のキャンピングカーを追加派遣
2月8日	輪島市へ10台のキャンピングカーを派遣
4月～8月	能登支援プロジェクト（NRSP）活動開始。定期的なメンテナンスを実施。 8月31日をもってすべての車両を引き上げ



珠洲市への支援

項目	1陣	2陣
派遣開始日	2024年1月11日（木）	2024年1月30日（火）
派遣場所	珠洲市商工会議所	ラポルト珠洲
派遣台数	キャブコン 14台 バンコン 3台 トレーラー 2台 計19台	キャブコン 11台



輪島市への支援

項目	1陣	2陣
派遣開始日	2024年1月18日（木）	2024年2月8日（木）
派遣場所	輪島市役所付近	コメリ輪島店第2駐車場
派遣台数	キャブコン 20台	キャブコン 11台



輪島市（ランドリーカー職員用）への支援

宮崎県のランドリーサービスを行う車両の派遣職員の宿泊所として使用された。

項目	詳細
派遣開始日	2024年1月27日（木）～3月11日
派遣場所	輪島市門前武道館
派遣台数	キャブコン 1台



メンテナンスの報告

継続的な支援のために

JRVA – N.R.S.P (Noto RV Support Project)

JRVA 能登災害RV パーク村支援プロジェクトチームの立ち上げ

■目的

能登地震災害に対しては『キャンピングカーに出来ること』、『日本RV協会に出来ること』を掲げて取り組んできました。

被災地の初動でレスポンス良く活用できるというキャンピングカーならではの取り組みを確実に継続して、キャンピングカーとJRVAの活動を確立するためにプロジェクトチームを立ち上げました。

■実施事項

キャンピングカーの貸与だけではなく、メンテナンスや使い方の指導も含めて継続的に支援できるような体制を作り、定期的に点検・修理を実行していく。

また、メンテナンスに限らず使用者の立場になり、アンケートやヒヤリング等声を聞いて課題・問題を洗い出し今後の活動支援に役立てる。

レジャーだけではないキャンピングカーの使い方、可能性を含めた「キャンピングカーによる“備え”」を官公庁にご理解いただき、最終的には、「日本版FEMA（緊急事態管理庁）の確立」につなげ継続的な災害時の支援を行える体制を作る。

メンテナンスの取り組み

想定よりも長期の使用への変更を受け、キャンピングカーをより安全に快適に使用していただくために、定期的なメンテナンスを開始。

各地域に設置された日本RV協会の地域部会が現地に月1回メンテナンスに向かう。



主な確認項目

- ・ バッテリーの状況
- ・ FFヒーター
- ・ 電気の使用確認
- ・ タイヤ
- ・ その他使用に支障のある不具合がないか

外部電源もなく、車両を動かす機会が少なかったため、バッテリー等に問題が生じるケースがあった。

使い方の説明書等を追加工作成し、不具合が起きにくい状況整備を行った。

※不具合が発見された場合は、車の派遣元により、後日の修理等を行いました。



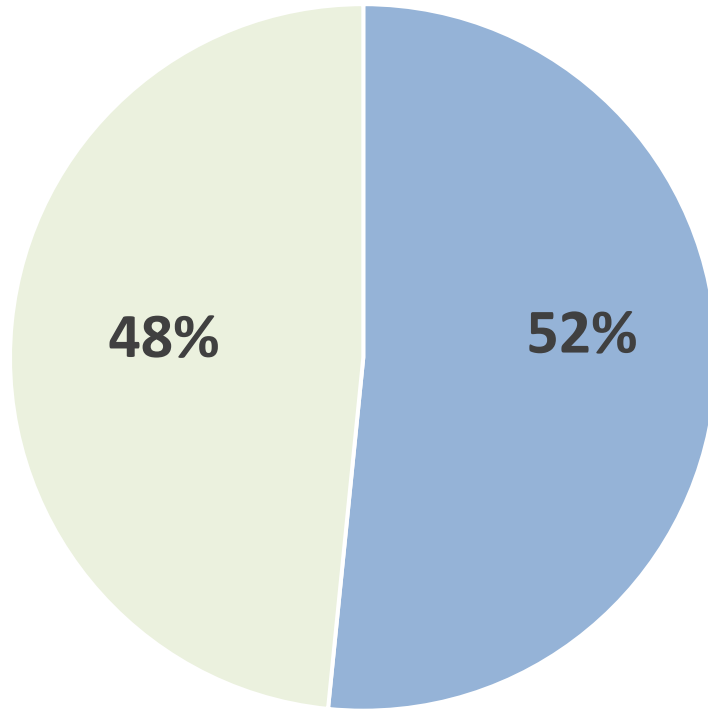
数値報告

実際に車両を使用した各自治体の応援職員様へアンケートを実施。
2023年8月～2023年9月末まで
回答者数157名

使用者のセグメント

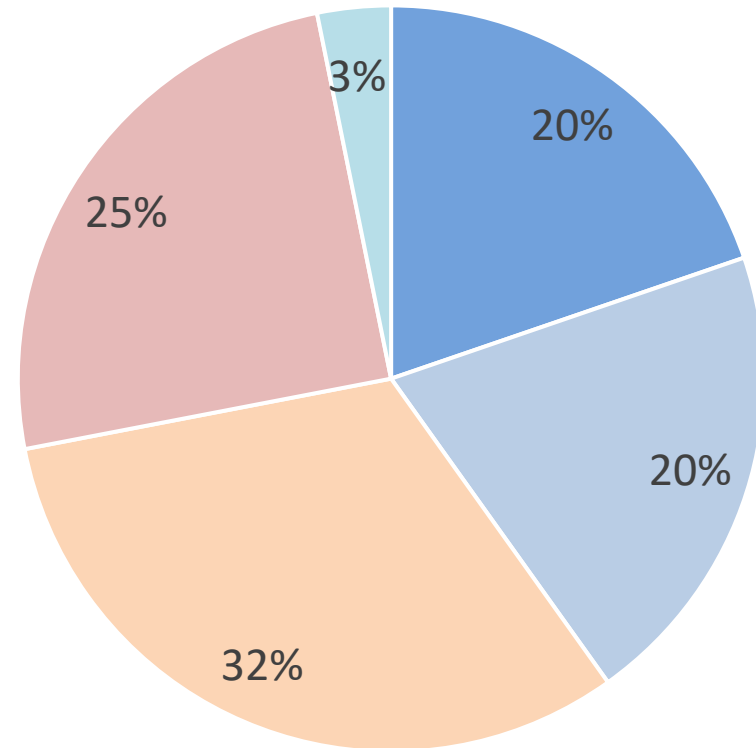
プライベート空間を確保できるキャンピングカーは女性にニーズがあるのではと聞いていたが、男女比に大きな差はみられなかった。年齢比も60台以上以外は大きな偏りはなく、派遣にきた応援職員にまんべんなく使用いただけたと想定できる

男女比



■ 男性 ■ 女性

年齢比

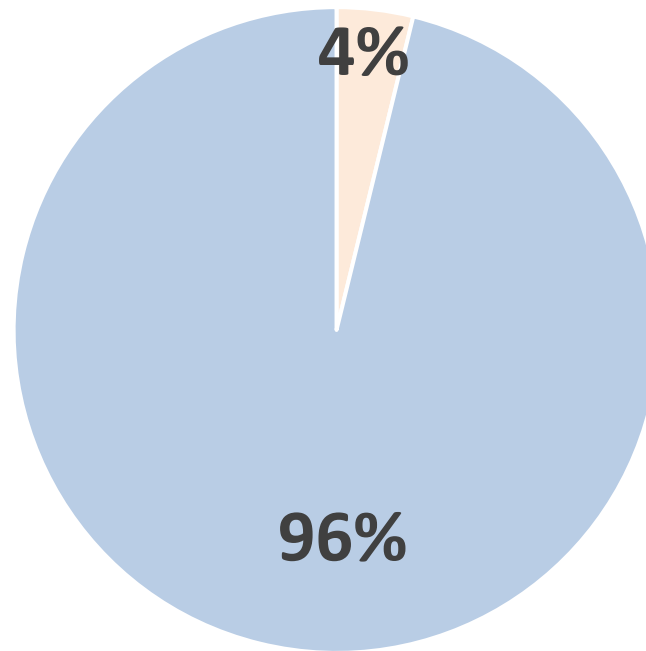


■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上

キャンピングカーの利用経験

利用者のほとんどがキャンピングカーの使用経験がなかった。利用経験ありの人はレジャーや災害対策で利用していた。経験があることでスムーズな利用が期待できるため今後も啓蒙活動を進める必要がある。

今回の利用までのキャンピングカー利用経験

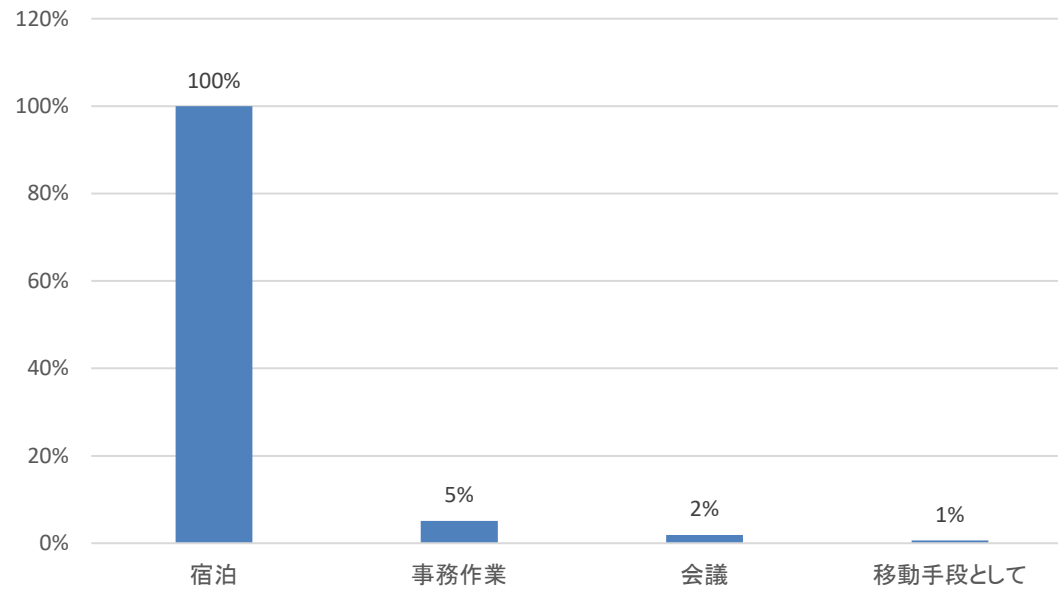


ある ない

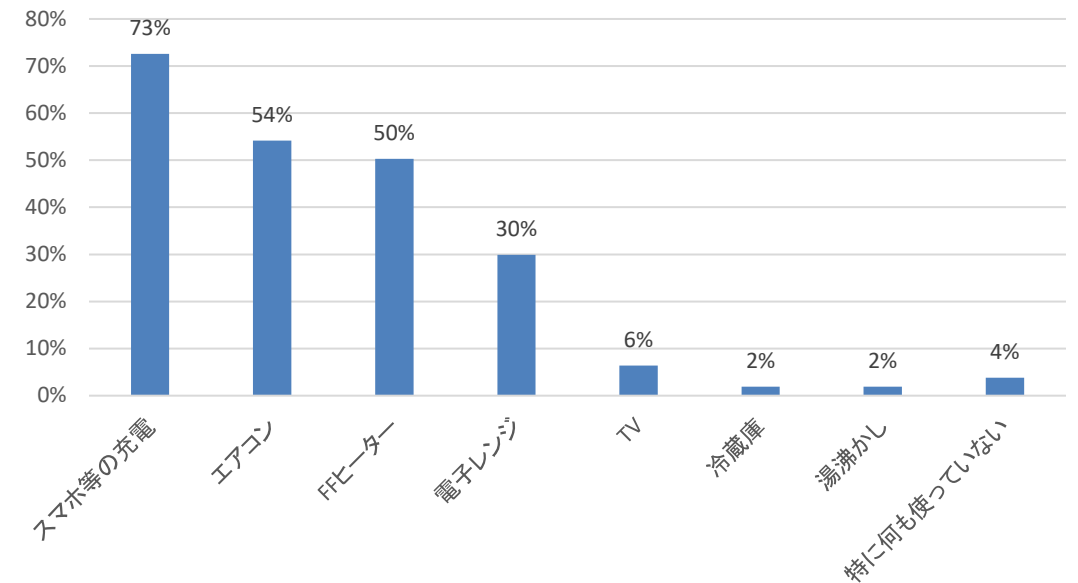
用途

用途は宿泊がメインであることが分かる。業務を終わらせた後、キャンピングカーは宿泊所として使用されていた。また、電源は使用できることは重宝されており、FFヒーターもしくはエアコンで暖をとっていたと考えられる。

用途



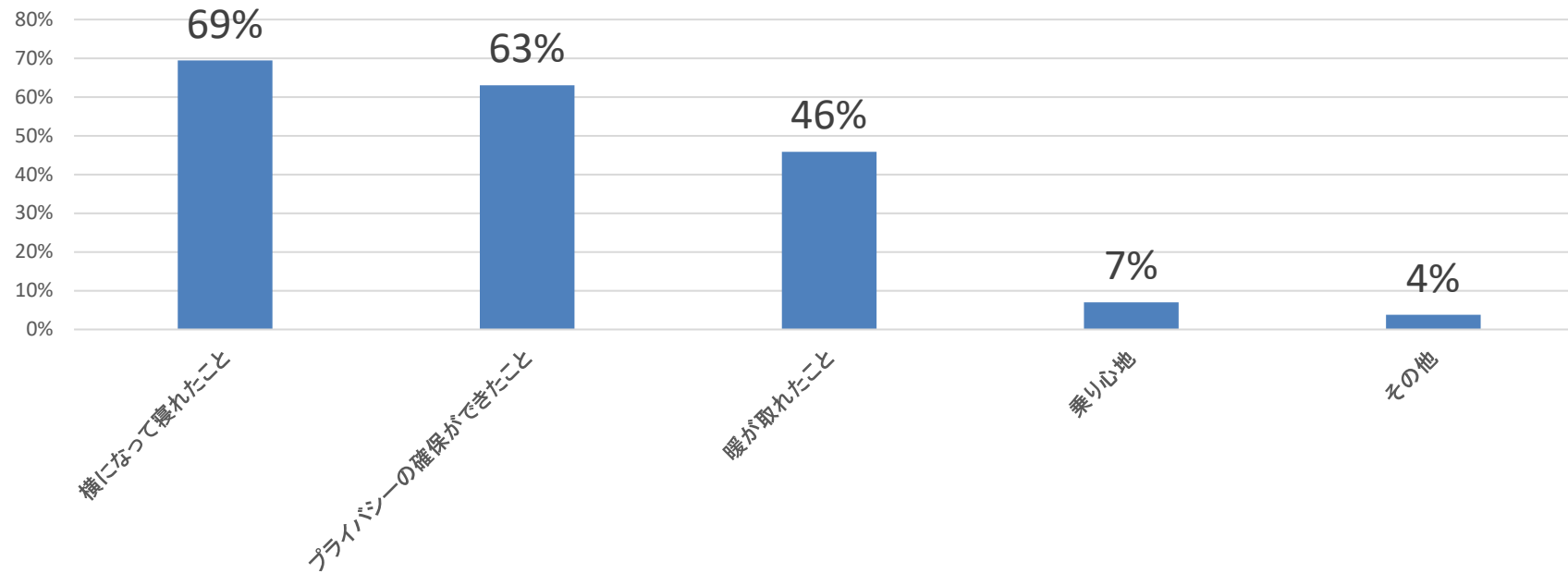
使用した機能



良かった点

キャンピングカー派遣前は役所の廊下で寝ていたという事実もあり、横になれる・プライバシーが確保できる点は好評を得た。

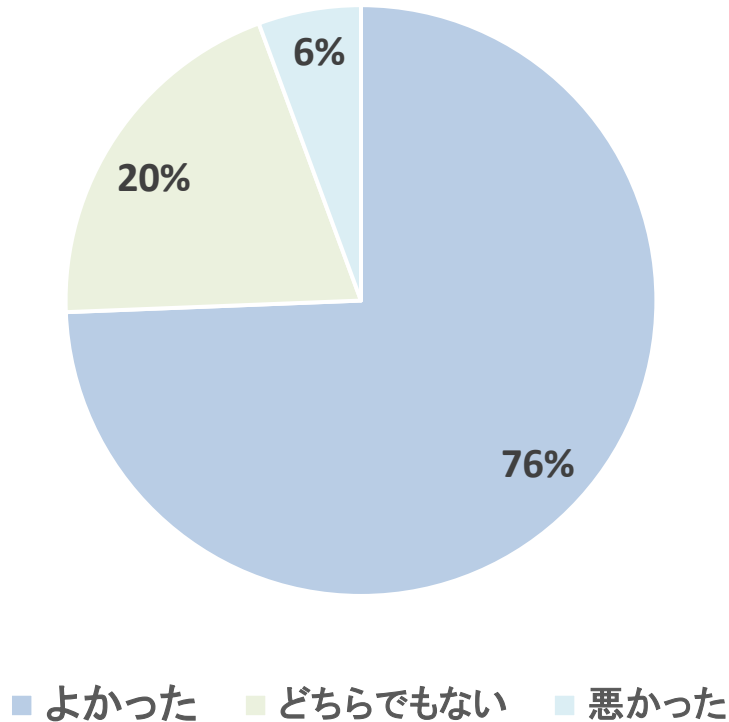
宿泊所としてのキャンピングカーの良い点 (複数回答)



キャンピングカー使用の感想

キャンピングカーそのものだけではなく、使用方法や駐車場への配慮も必要になる。

キャンピングカー使用の感想



■よかったの主な理由

- ・横になって寝れた
- ・暖が取れた
- ・プライベートが確保できた

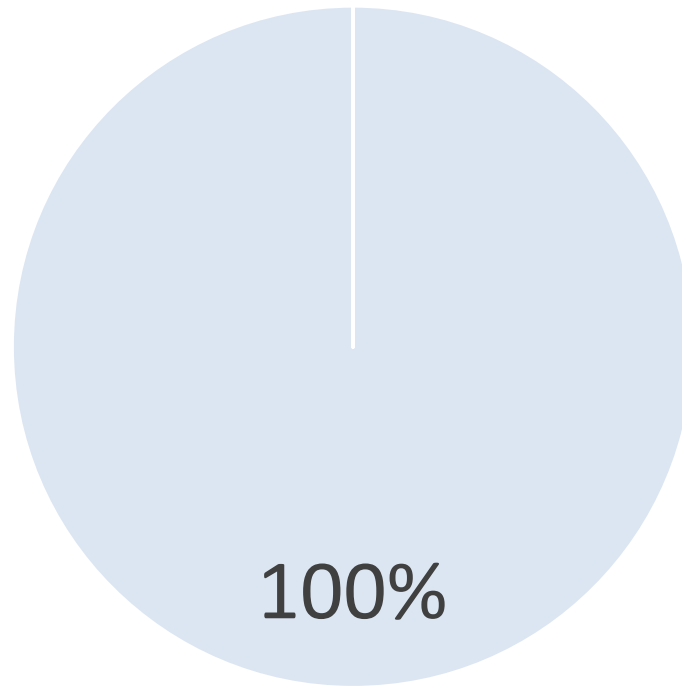
■悪かったの主な理由

- ・一台に複数人で泊まったのでプライバシーは感じられなかった
- ・雨音がうるさく寝れなかった
- ・人気のない場所に泊められていたので治安が不安だった
- ・トイレも使用したかった

災害時のキャンピングカーの導入について

今回の使用者の全員がキャンピングカーの使用が災害時に有効と回答。

災害時にキャンピングカーを使用することは有効か



■ 思う